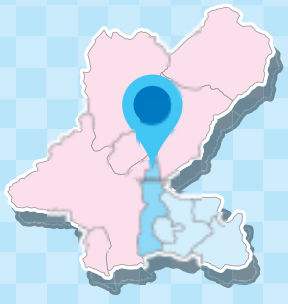




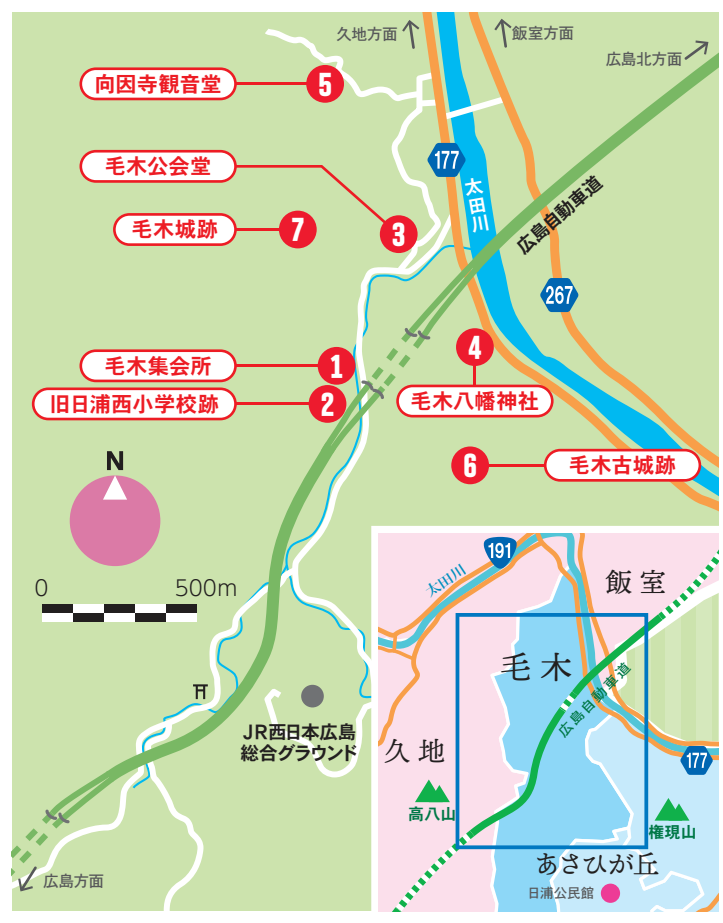
安佐町

毛木 けぎ

農業以外の産業で栄えた 小学校跡地は地域コミュニティに活用



太田川対岸から見た毛木地区。左に広島自動車道が見える



毛木は山に囲まれ、太田川とその支流毛木川の流域に位置し、西毛木とも呼ばれ現在、約90戸の集落です。毛木村は鎌倉時代中期の「安芸国国衙領注進状」に「阿土毛木村」とあり、阿土（現在の安佐南区沼田町阿戸）と毛木村を合わせて国衙領でした。毛木村は、江戸時代から明治22（1889）年までの村名で、元和

5（1619）年の「安芸知行帳」では「け木村」とあります。明治22（1889）年4月1日、4か村（毛木村外3村）が合併し新しい村名は日浦村の大字毛木となりました。当時の産業としては、農業の他に川船稼業、紙透、山仕事のほか焰硝も産出されました。また、葉藍の栽培や藩

最近では、毛木地区にあった旧日浦西小学校は明治7（1874）年の開校以来134年もの歴史を刻み、平成20（2008）年に閉校しました。跡地を利用して集会所が新築され、自治会等各団体の行事を実施するなど地域住民のコミュニティの場として活用されています。跡地のグラウンドでは、グラウンドゴルフや地区民運動会等を開催し、特に昭和30年代から始まった運動会は60回を数える伝統の行事となっています。

車に気をつけて歩こう

毛木は道幅が狭くカーブが多いため歩いての散策は危険です。しかし、写真で紹介している場所については近距離であり、危険な所はわずかです。毛木古城跡については、急峻な地形であり、時間も要するので登山のつもりで行くことをお勧めします。

毛木公会堂（③）へ駐車し、個々を拠点にして散策すれば、1時間余りで見て回ることができるでしょう。

毛木 けぎ



大正時代の姿を今に残す地域の集会施設

③ 毛木公会堂

大正時代に建てられ、地域の唯一の集会施設として利用されてきた。集会所ができた現在も周辺地域のコミュニティの場として活用されている。㊦あり



人口減少の波にのまれ閉校跡地では地区運動会等を開催

② 旧日浦西小学校跡

明治7(1874)年に開校した小学校だが、平成20(2008)年に134年の幕を閉じた。跡地では地区運動会やグラウンドゴルフ等に利用されている。



小学校跡地に建てられた地域コミュニティの場

① 毛木集会所

旧日浦西小学校の跡地に平成22(2010)年に建てられた。建物内には仏壇もあり、地域のコミュニティの場として活用されている。㊦あり



太田川に流れ着いた観音様地元が手厚く祀っている

⑤ 向因寺観音堂

毛木の総田原地区にあり、言い伝えによると、昔、太田川に流れ着いた観音様が見つかり、地区の人で供養したのが始まりという。今でも観音様が祀っており、毎年4月に地元の人たちがお経をあげ、花見をしている。



創建は室町時代初期 戦国武将の祈願所として栄える

④ 毛木八幡神社

延元2(1337)年の創建という。天文年間には領主民部大輔の祈願所であったと言われる。その後、正保2(1645)年に再建され、現在に至っている。

毛木にはこれらの他、小社が残されており、主なものを上げると次の通りである。

- ① 若宮大幡神社(毛木深山口)
- ② 恵比寿堂(オノ原)
- ③ 薬師堂(毛木中組)
- ④ 住吉大明神(立野)
- ⑤ 恵比寿堂(毛木3区尾崎宅裏の山中)

また、オノ原には JR 西日本広島総合グラウンドがあり、野球場や国際試合も可能なホッケー競技場がある。



戦国時代の山城跡地元の毛木氏の居城

⑦ 毛木城跡

戦国時代の武将、毛木民部の居城と言われていた。広島市教育委員会により調査が行われ、郭の構成等が明らかになっている。民家のすぐ近くであり見ることもできる。



毛木八幡神社の裏手毛木小太郎の居城

⑥ 毛木古城跡

毛木八幡神社のすぐ後方の山頂にあり、現在でも平坦になっており、城跡が確認できる。毛木小太郎の居城と言われる。この城跡へ行くには後山の権現山からと毛木の中村宅の裏から行くことができる。